



**美しい農村景観を次世代につなぐために**

**しきしまの家「自給家族」による農地保全実証事業**

---

**農村RMO／しきしまの家運営協議会**

# 「しきしま♡ときめきプラン2020」 3つの重点プロジェクト

**人口減少・高齢化社会を受け止めて前に進む！**

## プロジェクト① 支え合い社会創造プロジェクト

「結」のあった時代の、「ちょっと助けて」が気軽に言える、支え合いの地域社会をめざすシステムを創る

## プロジェクト② 自給家族による農地保全プロジェクト

集落営農組織化を進め、農地の利用集積を図りつつ「自給家族」方式によるCSA農業で農地を保全する

## プロジェクト③ 未来への構造改革プロジェクト

減少していく人口規模に見合った地域行事や組織、集落の再編に向けた方向性を提言、デジタルアーカイブの推進

# なぜ「農地保全」が 重点プロジェクトか

①山村の価値は「美しい農村風景」だから。

- ・ 荒廃地が広がり心が折れる

②移住者・関係人口に  
気に入ってもらおう。

- ・ 廃村に移住する人はいない

③次世代から選択肢を  
奪ってはいけない。

- ・ 荒廃農地は元に戻らない



プロジェクト②  
農地保全

# 3年間の調査・検討結果と環境 変化を踏まえた新たな方向性

- ①集落営農組織化は直ちには困難だ
- ②共同活動ができない集落も出てきた
- ③「自給家族」をやりたいが、人材がいない

国の政策など  
の環境変化

- ・中山間直払いの加算制度が拡充された
- ・農村RMOを推進する支援制度の創設
- ・「地域計画」の策定が義務付けられた



しきしま全体の広域連携で農地を保全しよう

# 農村RMOモデル形成支援事業(しきしま地区)

## 令和5年度～7年度

| 分野     | 計画・実証                                                                                                   | 概要                                      | R5事業費 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-------|
| 農用地全   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域計画」実現化戦略</li> <li>草刈省力化共同利用実証</li> <li>自給家族による農地保全</li> </ul> | モデル集落における戦略<br>草刈ロボット開発<br>米のCSAによる農地保全 | 5,462 |
| 地域資源活用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者生産野菜配送実証</li> <li>RMO拠点しきしまの家</li> </ul>                      | 健康、資源活用、農地保全<br>旧保育所活用・整備               | 1,620 |
| 生活支援   | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者等の移動支援実証</li> <li>支え合いシステム実証</li> </ul>                       | 運転代行、カーシェア<br>有償ボランティアシステム              | 2,880 |
| 合 計    |                                                                                                         |                                         | 9,962 |





# どうすれば農地を保全できるか

①担い手（誰が農地を使うか）

②作物（何を作付けするか）

③安定販路（どこに売るか、採算が合うか）

# ①担い手をだれにするか？

- ①集落営農組織は合意形成のハードルが高い
- ②条件不利地で農業生産法人参入は難しい
- ③Iターン人材の受け皿となる組織がない



だけど農地を保全しなければ、地域は持たない



まずは**アクティブシニア・元気高齢者**しかない

## ②何を作付けるか？

- ①普通に米を作れば赤字になる
- ②湿田、日照不足で野菜の産地化は厳しい
- ③施設園芸で使う農地面積は知れている
- ④自然薯、有機野菜も大面積は使えない



だけど農地を使わなければ、荒れていく



**「特別栽培米」ミネアサヒ**

### ③どこに売るか、採算が合うか？

- ①米を農協に出荷しても赤字になる
- ②特産物で市場の評価を得るには年数が必要
- ③農家はマーケティングが得意ではない
- ④専業でないと直接販売も現実的でない



常に売り先、採算に頭を悩まされる



関係人口との長期栽培契約

# 103家族が3.0haの農地を守る

## 押井の里「自給家族」の現状（2023年10月現在）

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 居住地域 | 市内36、県内43、県外24（東京、京都、大阪など）  |
| 契約数量 | 2023年産契約数量154俵（世帯平均1.5俵）    |
| 契約年数 | 6～10年34件、3～5年55件、1～2年お試し14件 |

### 各種アワードで受賞

R4ディスカバー農山漁村の宝 東海農政局長賞  
R5豊かな村づくり表彰 農林水産大臣賞  
R5農林水産祭 日本農林漁業振興会長賞

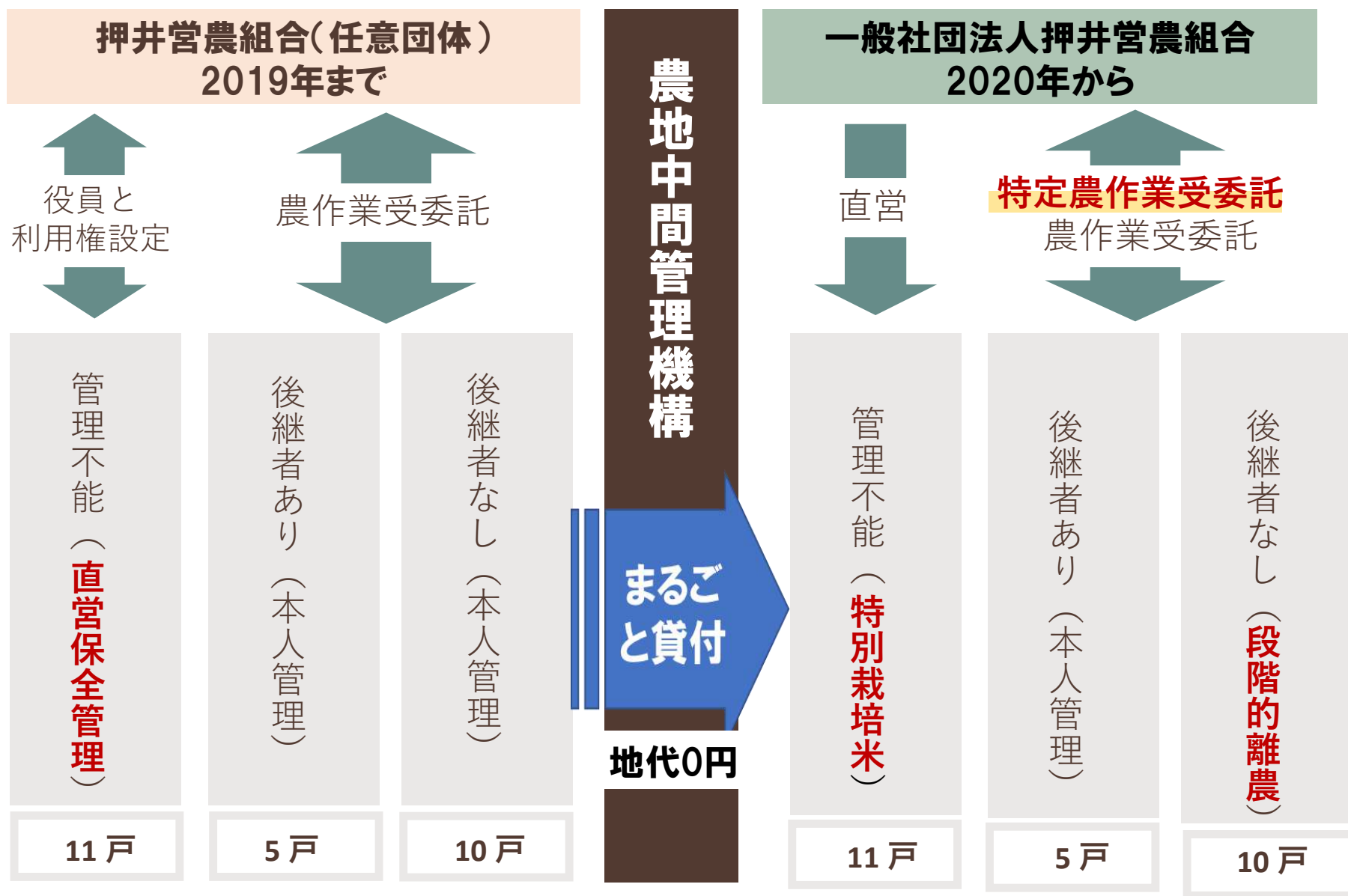
評価

- ①地域まるっと中間管理方式
- ②米のCSA「自給家族」方式

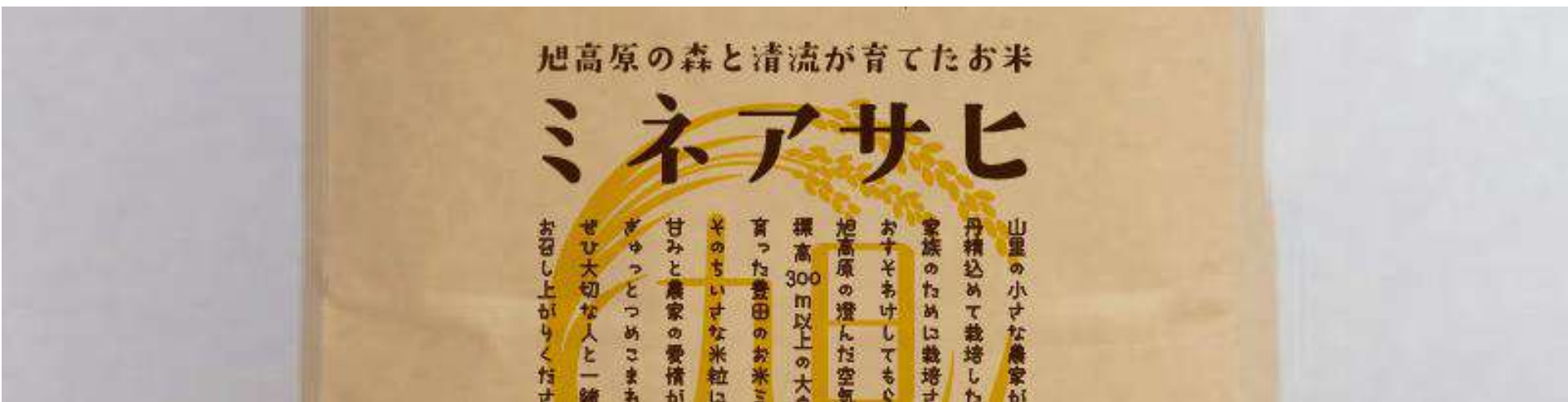


11.23農林水産祭（明治神宮）

# 「地域まるっと中間管理方式」(押井集落の事例)



# しきしまの家「自給家族」で農地を守る



- ① 3～10年の長期栽培契約者「自給家族」を募る
- ② 契約者は、1俵30,000円の栽培経費を前払いする
- ③ 契約に基づき「特別栽培米」として生産、保管する
- ④ 「自給」の喜びもリスクも共有する
- ⑤ 10kg単位で取扱、自己引取、楽しく交流する

**得意の米で農地が守られ、食の安心を保証、  
双方の暮らしが豊かに、楽しくなる。**

# しきしまの家・自給家族のコンセプト

生産者と消費者がつながって、双方が豊かになる

## しきしまの家

### のメリット

- 農の営みが続き  
農地が守られる
- 集落が消滅の危機  
から救われる
- 「関係人口」が生まれ  
暮らしが楽しくなる

親戚の米を少し多めに作るようなもの



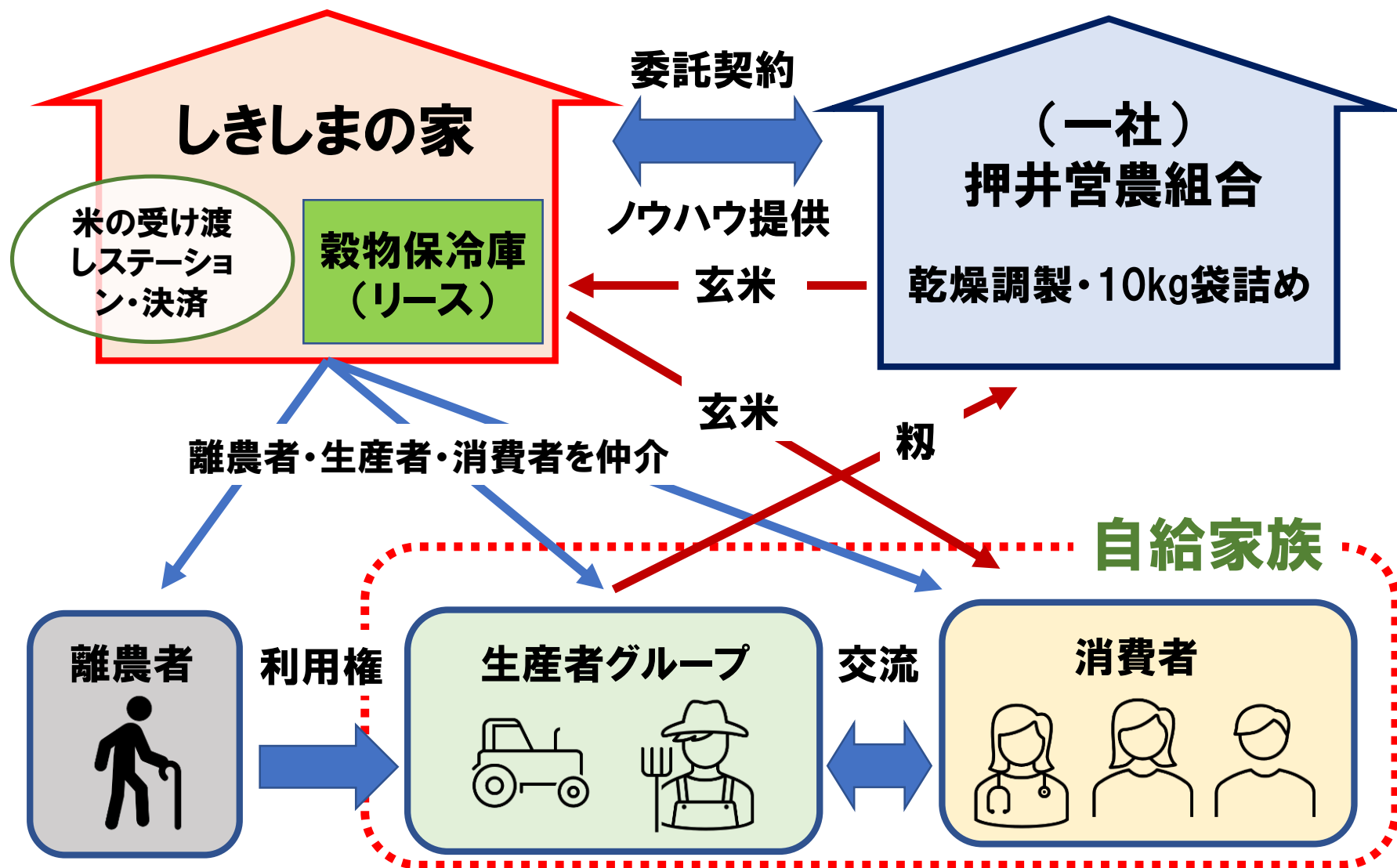
## 新しい家族

### のメリット

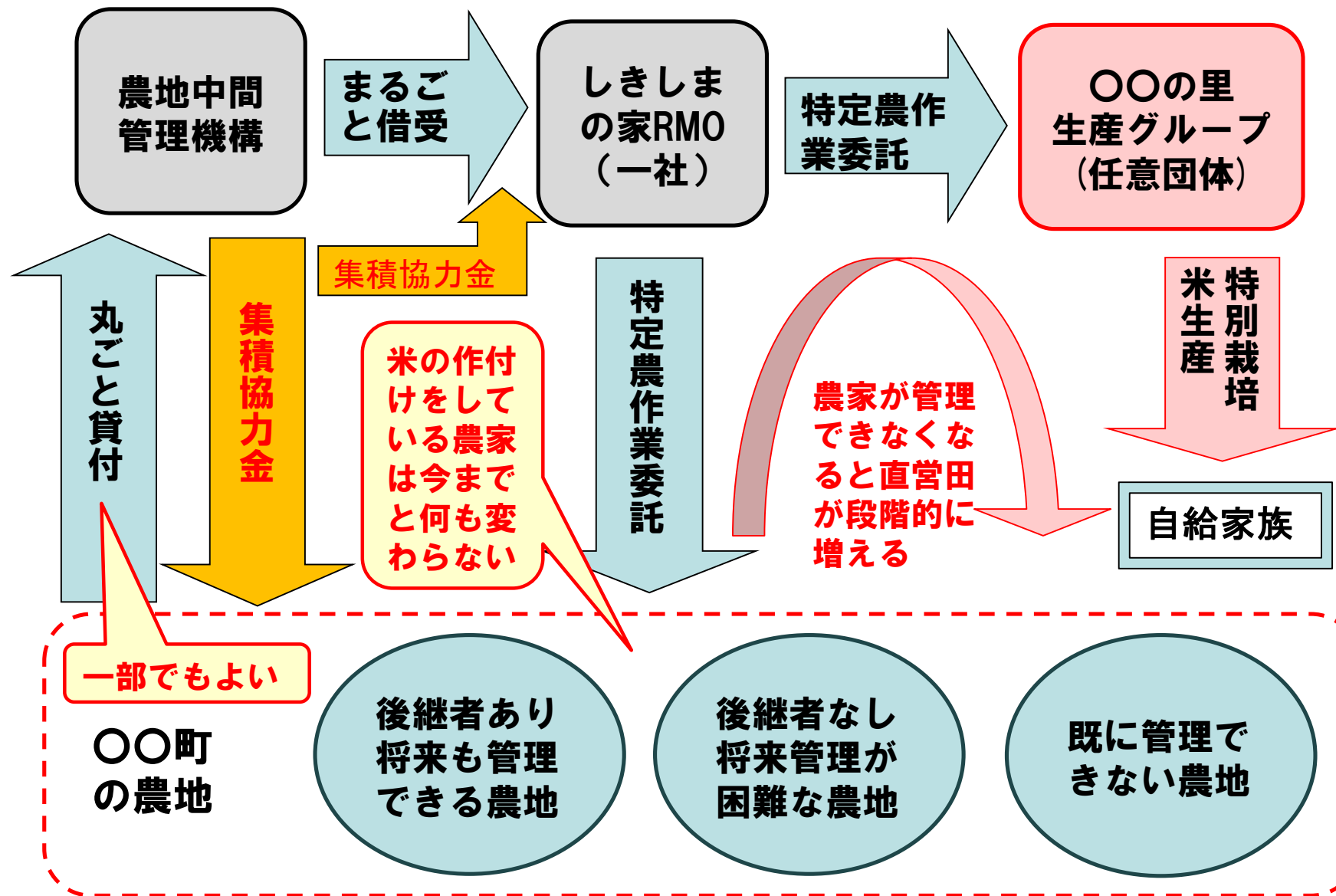
- 安全で美味しいお米が  
確実に手に入る
- 地球や人に優しい  
消費に貢献できる
- 自然や人の温もりを感じ  
暮らしが楽しくなる

少し横着な「棚田オーナー」のようなもの

# 「自給家族」による農地保全実証の枠組み



# 「しきしまの家」農地保全システム（将来）





**しきしまの家・自給家族を募集します**